

景気動向調査の概要

(平成24年4～6月)

平成24年7月
富山商工会議所

海外企業との競争が激化、中国などの低価格製品に苦戦

<今期の特徴>

製造業では、一般機械・電子部品・輸送機械ともに、自動車関連部品の受注が好調であった一方、中国など海外企業との競争が激化し、二輪用のハンドル部品や薄型テレビ関連部品などの受注が低調だった。また、中国の建設機械向けの油圧機器や産業機械、市販向けベアリング等の受注が減少。本県の主要産業である医薬品業界においては、ジェネリック医薬品の受注が好調さを維持しており、関連する医薬品のパッケージ等の印刷業にも好影響を与えている。その一方で、紙の原材料費の高騰やチラシなど商業用洋紙の需要が減っていることから、企業収益の悪化を懸念する声もある。

非製造業では、6月の天候不順や消費者の節約意識の高まりから、衣料品等の売上が低調であった。旅行については、円高の影響で海外旅行の申し込みが好調であったほか、東日本大震災の影響から落ち込んでいた国内旅行の申し込みも増加傾向にあり、持ち直しの動きが見られる。新規自動車の登録台数は、東日本大震災で打撃を受けた生産体制の回復やエコカー補助金の追い風等により、大幅に増加した。

昨今話題の消費税の増税に関しては、増税後の景気の冷え込みなども懸念されるため、消費者の動向を注視していく必要があるとしている。

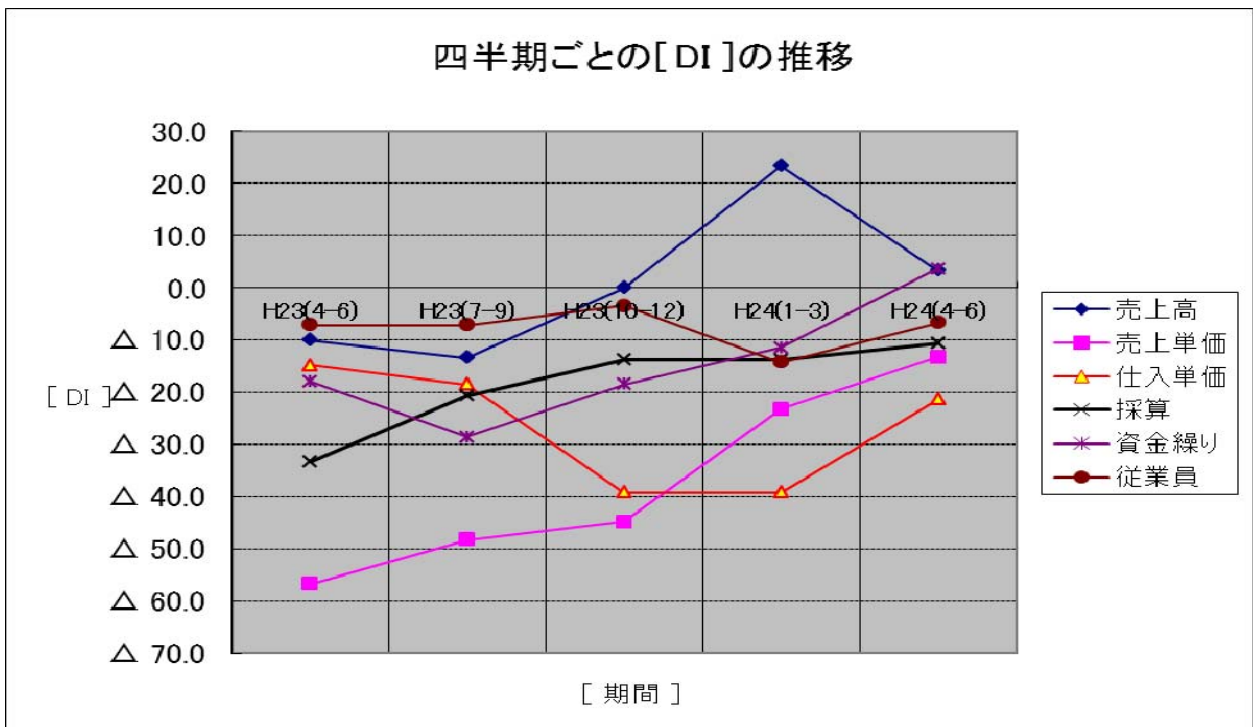
最後に、節電に対する意見として「業界全体として、節電意識を持って省エネに務めたい」「節電ではなく経費削減という意識を持って、企業経営にプラスにつなげたい」といった意見がある一方、「製造工程や商品の品質に支障をきたすような節電は行えない」といった意見も聞かれた。

<< 調査実施要領 >>

- | | |
|---------|--|
| ①調査実施時期 | 平成24年6月25日(月)～平成24年7月5日(木) |
| ②調査対象 | 当所景気モニター30事業所(団体) |
| ③調査方法 | 調査票を郵送し、FAXで回収 一部、直接または電話による聞き取り調査も実施 |
| ④有効回答数 | 30事業所(団体) ※回答率100.0% |

(1) 今期の状況

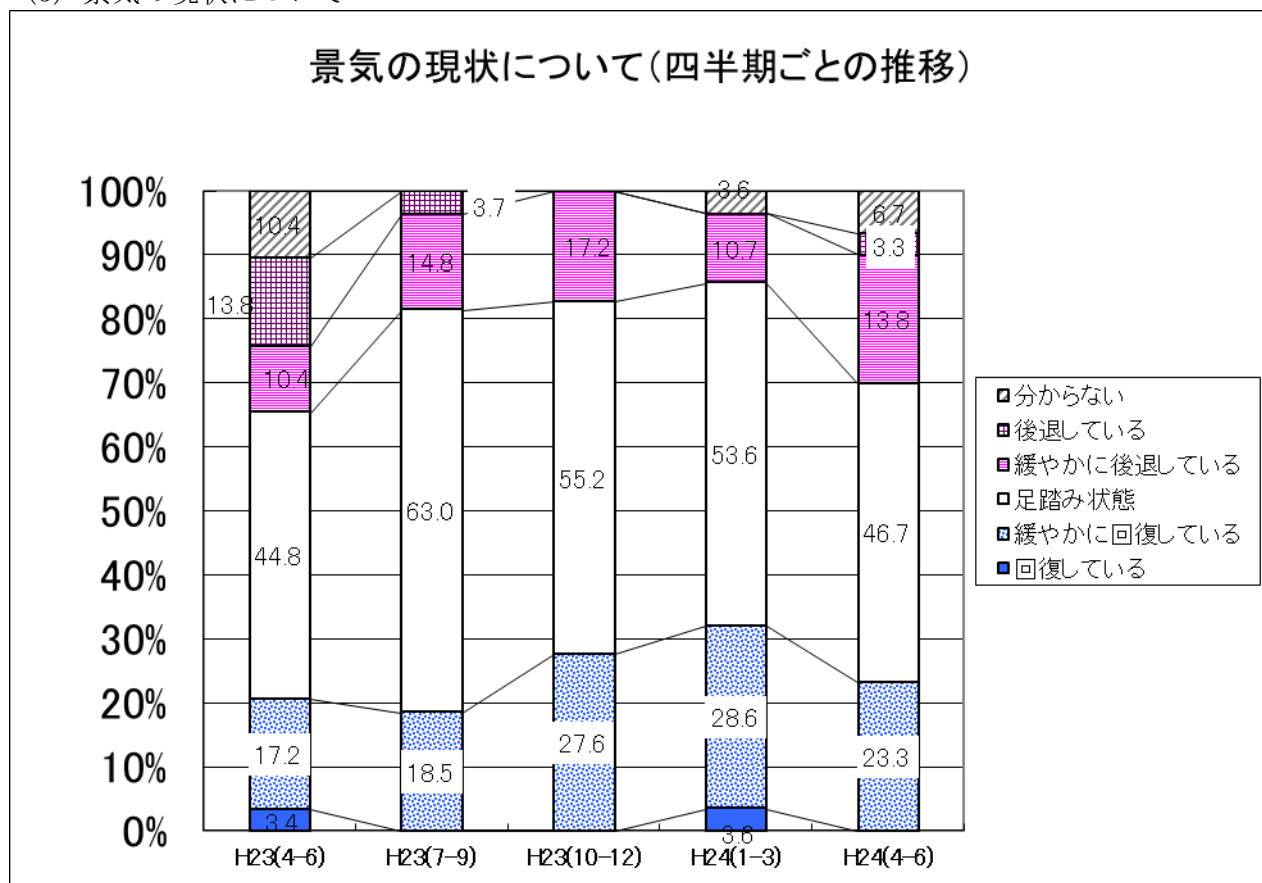
| 今期の状況(%) | | 23年 4-6 月期 | 23年 7-9 月期 | 23年 10-12 月期 | 24年 1-3 月期 | 24年 4-6 月期 |
|----------|-----|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|
| 前年同期比 | | | | | | |
| ① 売上高 | 増加 | 36.7 | 30.0 | 30.0 | 43.3 | 33.3 |
| | 不変 | 16.7 | 26.7 | 40.0 | 36.7 | 36.7 |
| | 減少 | 46.7 | 43.3 | 30.0 | 20.0 | 30.0 |
| | D I | △ 10.0 | △ 13.3 | 0.0 | 23.3 | 3.3 |
| ② 売上単価 | 上昇 | 3.3 | 3.4 | 3.4 | 20.0 | 23.3 |
| | 不変 | 36.7 | 44.8 | 48.3 | 36.7 | 40.0 |
| | 低下 | 60.0 | 51.7 | 48.3 | 43.3 | 36.7 |
| | D I | △ 56.7 | △ 48.3 | △ 44.9 | △ 23.3 | △ 13.4 |
| ③ 仕入単価 | 低下 | 14.8 | 11.1 | 3.6 | 7.2 | 7.1 |
| | 不変 | 55.6 | 59.3 | 53.6 | 46.4 | 64.3 |
| | 上昇 | 29.6 | 29.6 | 42.9 | 46.4 | 28.6 |
| | D I | △ 14.8 | △ 18.5 | △ 39.3 | △ 39.2 | △ 21.5 |
| ④ 採算 | 好転 | 18.5 | 24.1 | 24.1 | 20.7 | 25.0 |
| | 不変 | 29.6 | 31.0 | 37.9 | 44.8 | 39.3 |
| | 悪化 | 51.9 | 44.8 | 37.9 | 34.5 | 35.7 |
| | D I | △ 33.4 | △ 20.7 | △ 13.8 | △ 13.8 | △ 10.7 |
| ⑤ 資金繰り | 好転 | 3.6 | 0.0 | 0.0 | 3.8 | 14.3 |
| | 不変 | 75.0 | 71.4 | 81.5 | 80.8 | 75.0 |
| | 悪化 | 21.4 | 28.6 | 18.5 | 15.4 | 10.7 |
| | D I | △ 17.8 | △ 28.6 | △ 18.5 | △ 11.6 | 3.6 |
| ⑥ 従業員 | 増加 | 25.0 | 21.4 | 17.2 | 14.3 | 16.7 |
| | 不変 | 42.9 | 50.0 | 62.1 | 57.1 | 60.0 |
| | 減少 | 32.1 | 28.6 | 20.7 | 28.6 | 23.3 |
| | D I | △ 7.1 | △ 7.2 | △ 3.5 | △ 14.3 | △ 6.6 |



(2) 今期の業況と来期の見通し

| 今期の業況(%) | | 23年 4-6月期 | 23年 7-9月期 | 23年 10-12月期 | 24年 1-3月期 | 24年 4-6月期 |
|----------|-----|--------------|--------------|----------------|--------------|--------------|
| 前期比 | | | | | | |
| ① 業況 | 好転 | 26.7 | 26.7 | 23.3 | 24.1 | 34.5 |
| | 不変 | 23.3 | 43.3 | 43.3 | 58.6 | 51.7 |
| | 悪化 | 50.0 | 30.0 | 33.3 | 17.3 | 13.8 |
| | D I | △ 23.3 | △ 3.3 | △ 10.0 | 6.8 | 20.7 |
| 来期の見通し | | | | | | |
| ② 業況 | 好転 | 26.7 | 20.7 | 20.7 | 24.1 | 32.1 |
| | 不変 | 40.0 | 48.3 | 55.2 | 51.8 | 50.0 |
| | 悪化 | 33.3 | 31.0 | 24.1 | 24.1 | 17.9 |
| | D I | △ 6.6 | △ 10.3 | △ 3.4 | 0.0 | 14.2 |

(3) 景気の現状について



1. 生産活動

- 一般機械** ◎ 四輪用エンジン・トランスミッション等の構成部品や航空機の部品、発電向けの工具・工作機械の受注が好調。一方、中国の建設機械向け油圧機器や産業機械、市販向けベアリング等の受注は減少している。
- 電子部品** ◎ スマートフォン向けの電子部品や自動車用の電子部品関連の受注が好調に推移している。一方で大手メーカーが薄型テレビ等に対する生産計画を減産の方向で見直しを始めた影響で、薄型テレビ関連部品の受注が減少している。
- 輸送機械** ◎ 四輪用エンジン部品の受注が好調に推移したが、二輪用ハンドル部品や四輪用ミッション部品の受注が低調となった。中国など、海外企業との競合が激化し、受注競争が厳しい状況にある。
- プラスチック** ◎ スマートフォン関連のパーツとなるプラスチック部品の受注が好調である。しかし、中国製品とはかなりの価格差がある園芸用品部門の受注は減少傾向にある。
- 医薬品** ◎ ジェネリック医薬品メーカーの受注状況は好調を維持しており、大規模な設備投資の計画もあり、業界が活気づいている。一方で配置用医薬品関連の売上は依然、低調が続く。
- 紙・紙加工** ◎ 受注状況が好調なのは医薬品のパッケージや添付など。IT化に伴うペーパーレスの一層の進行や低価格な中国製品に押され、チラシなど商業用の洋紙受注は依然として低調である。
- リース** ◎ 受注は全体として大口のリースが減り、1回の受注単価が小口化してきているため、今後小口の受注件数を増やす対応が求められる。
- 物流** ◎ 受注は小口取引へのシフトが進行している。物流コストの削減が急務となっている。

2. 消費関連・物価・その他

- 大型小売店・専門店** ◎ 県内の大型小売店（百貨店＋スーパー）の既存店売上は、前年同月比で4月が95.7%、5月が97.0%となっている。
- ◎ 百貨店は5月、6月の天候不順の影響や節電等の儉約意識の高まりもあり衣料品等の売上は低調に推移した。
- ◎ ショッピングセンターは、前年、東日本大震災の影響で食料品は全般的に売上高が伸びた。但し、前年の食料品売り上げは特需と言えるものであ

り、今年は食料品の売上に関しては前年同月比で減少した。一方で、前年低調であった雑貨等の売上は、今年に入って回復しつつある。

- ◎ 家電量販店では、LED照明や太陽光発電等の環境や省エネの関連商品の需要が伸び、また、節電意識の高まりで、古いエアコンや冷蔵庫等の買換え需要が好調に推移している。

薄型テレビを中心としたオーディオ・ビジュアル機器関連は需要の減少、価格の下落で苦戦している。

青果卸

- ◎ 旬の果物であるさくらんぼが好調であった。また、野菜は胡瓜、トマト、玉ねぎ、キャベツの流通が好調であった。

旅行・宿泊・飲食

- ◎ 円高の影響で海外旅行の申し込みが好調に推移したほか、東日本大震災で落ち込んでいた国内旅行も徐々に申し込みが増えてきている。なお、ロンドンオリンピックの影響は特にない。

- ◎ ホテルは、ネット媒体を活用し県内外からのファミリー層やカップル層の集客を確保することができ、4月、5月は好調だった。

- ◎ レストラン、飲食店は歓送迎会等の宴会やパーティーが比較的好調であった。学会などのコンベンション客の来店も多くなった。

情報関連

- ◎ システムインテグレーションといわれるハード面を含むシステム更新により、地方自治体や医療機関向けの受注が堅調に推移している。回復傾向にあるソフトウェア開発に加え、サーバー開発の需要も上がってきている。一方、金融機関向けサービスは低調に推移している。

新車販売

- ◎ 県内の新規自動車登録台数（軽自動車を除く）は前年同月比で4月が193.7%、5月が161.0%、6月が130.1%で、前年同期比（4－6月）では152.8%となった（富山県自動車販売店協会調べ）。軽自動車登録届出台数は前年同期比（4－6月）で165.7%（富山県軽自動車協会調べ）。

- ◎ 県内の新規自動車登録台数（軽自動車を除く）は、東日本大震災で打撃を受けた生産体制の回復や、エコカー補助金の追い風もあり、大幅に増えた。

建設工事

- ◎ 富山市内の新設住宅着工戸数は前年同月比で、4月197.1%と伸びたものの、5月は45.4%と落ち込んだ。県内の公共工事受注額は前年同期比（4－6月）で110.9%となった。（富山県・東日本建設保証（株）富山支店調べ）

3. 節電の取り組み

製造業

- ◎ 空調設備（エアコン）の省エネ機種への入れ替えや照明器具のLED化の

ほか、最大使用電力量を抑えるピークカットのマニュアルを工場内で徹底させるなどの節電を行っている。また、投資額は高いが、トランスコンプレッサーなど節電効果の高い機器への入れ替えなども行っている。

◎ 事務所や工場内のエアコンの設定温度を、比較的高めの 28℃に設定しているほか、空調設備を電気からガスを利用した設備に切り替えた。

間接部門や閑散期の製造現場の労働時間に夏季用のフレックスタイム制を導入したり、土・日曜日などに休日稼働したり、工夫して消費電力を抑えている。

◎ クールビズや壁面緑化、屋上緑化といった取り組みのほか、節電や省エネに関する目標を設け、毎月報告会で実績報告するなどして、従業員等の節電意識を高めている。

小売・サービス業

◎ 店内の間接照明の照度を 80%程度、屋外の広告塔の照度を 50%程度にそれぞれ削減しているほか、店内のエアコンの設定温度を 27~28℃に調整している。

◎ 気温や天候によっては、室（店）内のエアコンをこまめに調整し、窓を開けるなど、風通しを良くして節電を図っている。また、空調設備を電気からガスの設備に切り替え、消費電力を抑えている

◎ 業務用エレベータの利用時間の制限や館内通路の照明器具の減灯（間引き）・LED化への切り替えなどを行っている。

◎ 使用していないパソコンの電源のオフ化や省エネモード化の徹底に加え、複写機等の使用を極力控えるなどしているほか、労働時間管理の徹底を呼び掛け、オフィス内の節電を励行している。

◎ デマンド値（最大需要電力）の引き下げを目的にデマンドコントローラを導入し、ピーク電力の削減（いわゆるピークカット）や節電などを励行している。

その他・意見等

◎ 照明器具のLED化や省エネ機器の導入などにより節電対策に取り組んでいるが、医薬品製造の場合、商品の品質を保持するため、温度や湿度などの環境を一定に保つ必要があり、商品の品質に影響を与えるような節電は行えない

◎ 太陽光発電の導入や照明器具のLED化などに対する行政の助成制度の充実をお願いしたい。